

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々職員は笑顔で接し、まごころこめたケアで利用者の希望や思いがかなえられ、利用者の「笑顔・満足」で日々過ごせるよう心がけている。	事業所開設時に作成された介護理念は、現在もケアの指針として継続している。事業所内の会議や職員学習会では、事業所理念に照らしあわせて日々のサービスを振り返り、サービス提供の在り方を確認し、理念を反映したサービスに繋ぐよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市報や祭りの案内状が配られる。地区の祭りのお神輿の休憩場所として毎年来てくれている。子供たちや地域の方々と触れ合う機会になっている。	現在、地域のお祭りの休憩場所として、また事業所内の祭りや誕生会にはボランティアの参加があるなど、地域住民との交流が図られている。今後、事業所を会場とした地域住民とのお茶会を計画中であり、より積極的な日常の交流を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習やボランティアがあり、最終日には「楽しかった、介護の仕事に興味を持った。」などの言葉が聞かれたり、事前学習を通して、また実際参加して質問事項などで得るものがあるよう対応している。。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員の方やボランティアの方々が納涼会で盆踊りや踊りなど、盛り上げて下さっている。	運営推進会議は家族代表、利用者代表、介護保険担当者、地域包括センター職員、区長、民生委員など、多くの地域住民の出席にて開催されている。事業所の生活の様子やサービス状況の報告があり、参加者からはサービスについての質問意見が出され、より良いサービスを目指す話し合いの場になっている。	多くの地域住民の参加の下、利用者の生活状況が報告され理解されている。しかし、現在、事業所のみでは困難と思われる災害有事の対応、日々の地域交流・協力体制の実現に苦慮している等の課題発信がされていない状況が窺える。運営推進会議は地域に理解と支援を得る機会である。参加メンバーに地域交流・協力体制の検討を積極的に働きかけ、意見をもらい、地域に開かれた活動に取り組めるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス区分の会議には情報交換や悩みなど解決に向けた手立てが得られる。運営推進会議でも参加いただき、困難事例の解決方法の糸口や参考になることを教えてもらっている。	市の介護保険係、地域包括センター職員とは運営推進会議において、日々のサービスの取り組みを報告しており、困難事例等の相談も行っている。他には、更新申請、定期的な書類の提出にて市町村との関わりを密に持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、指針の周知や身体拘束をしないケアを可能な限り取り組んでいる。3か月に1回の代表者会議で検討したことが他の職員にも周知し、日々のケアに生かせるようにしている。	毎年、外部の研修に参加し、参加した職員による伝達講習にて全職員が周知する機会を設けている。身体拘束適正化対策検討会議を3ヶ月に1回行い、決定した内容を提示し、職員意識に繋げ防止に努めている。また、家族に説明、承諾を得て居室、玄関にセンサーが設置されているが、施錠は一時的としており、見守り支援として活用している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、虐待に当たるようなこととは何か、折にふれ、確認したり、日々の対応に職員同士、話し合ったり、注意し合ったりしている。	職員は外部研修に参加し、伝達講習にて全職員の周知を図っている。日々の関わりの中で、不適切ケアが確認された時は休憩時間等を活用し、職員間で話し合いを行い、その対策は職員ノートへの記録、朝の申し送り、職員会議等で情報共有し、注意喚起・防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方に対して支援を受けている。自立支援事業では毎月一回支援員の訪問によりスムーズに連携が取れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明・理解を図るように努めている。改定時には、説明文書や同意書を得ている。特に看取りについても開始時だけでなく、契約時にも丁寧に説明をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時や入居者や家族の面会時などに要望や意見を聞かせてもらったりして行事などに入れていたりしている。	毎年、外部評価と同じ内容でアンケートを実施し、意見要望を把握するよう努めている。また家族には電話連絡や面会の際に主任、ケアマネージャー、管理者から声掛けし、情報の把握に努めている。出された要望は事業所内で検討を行い、可能な限り対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の職員会議の後の常勤会議を開催し、2つの事業所と代表者が集まり、職員の意見や提案を聞いてもらう機会がある。その場で検討し、対応が得られている。	管理者は働きやすい職場を目指し、職員意見を聞くよう心掛けている。毎月開催される経営者、管理者、常勤職員参加の会議において、職員の意見・要望を聞く機会としており、施設設備、福利厚生等についての話し合いが行われ、検討し対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が資格取得や、講習会や研修会などの参加に声をかけたりしている。資格によっては手当などあり、働く意欲につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加したら受講報告書や資料など、回覧だけでなく職員会議の時などに報告する機会を持ち、職員が情報共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会が少ないが、勉強会や研修会が夜に開催されるので参加しやすい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族などから様子や状態を伺い、サービス導入に不安・心配を受け止め、安心につながられるよう、関係づくりをしている。またいつでも聞ける体制ができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状況や様子を聞いたり、家族等の苦労や不安、要望などを伺ったりして信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望、要望、不安や心配なども伺いながら、そのために必要な支援や、できる支援やサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることやれることを探し、発見できたことは共有し、その人を深く知る手立てとしている。得意なこと、生き生きとする場面作りを大切にしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ぶなの里通信では写真やコメント欄が限られているため面会時などに様子や本人の思いや希望を伝えたり、家族からの思いも聞かせてもらったりしている。	3ヶ月に一回、家族配信する「ぶなの里通信」にて外出支援や日頃の事業所での生活を理解してもらっている。また、個人購入品の依頼、面会時のドライブ支援、家族による理髪の付き添い、布団の管理支援など、個別の状況に合わせて計画的に家族協力を依頼するなど、家族との絆を大切にしながら共に支え合う関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟・本家など、親戚の方の面会がある方もいるが、次第に減ってきているのが現状である。	親戚、友人、兄弟などの面会、手紙、電話等、馴染みの人との関係を継続できるよう支援している。また、お墓参りや自宅への外泊も家族の協力を得ながら行われている。職員が薬をもらいに行く際には利用者に同乗してもらい、街並みを見て回るなど馴染みの場所との関係性を支えるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の性格や思い、状況をとらえ、悪化しないよう、またはその場面を大切にしながら、職員が周囲の様子を見ながら支援するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者には、本人様の情報をできるだけ詳しく伝えたり、その後の様子についても聞かせてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い、希望、要望等が明確に話して下さるので把握しやすい。困難な人には、日常の会話の中や繰り返し発せられた言葉や話、表情を大切に職員が共有し、検討している。	訪室時や余暇活動中、リラックスしている入浴中の何気ない会話の中からも、希望・要望を把握するように心がけている。言葉でのコミュニケーションが難しい方には、家族からの情報や本人の表情・行動・言葉から職員が配慮し本人の意向を理解するよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人あるいは、サービス担当者や家族から情報を得ていることを共有し、プライバシーに配慮しながら生活の中で取り入れたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のできる力を理解し、それを役割としたり、継続的にやってもらったりして、暮らしやすいように時には個別対応であったり、不穏になる方には、働きかけの方法を試行錯誤しながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、本人の思いや家族の意向を聞きながら、状態変化にも見直しやモニタリングを行い、よりよいケアに結び付けられるよう職員全体でしている。	サービス担当者会議は本人、家族、担当者、ケアマネジャーが参加し、ニーズを踏まえた介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し職員全員で検討し、個別の状態、変化に対応した介護計画が作成されている。	ケアマネジメントの流れでサービスは実施されているが、計画の更新・修正の根拠となる目標達成の判断資料(サービスを実施した際の利用者の反応、職員の実施したサービス内容と実施状況の振り返り、課題等)の日々の記録資料が整理されておられない状況が窺える。評価の客観性が懸念されるため、サービスを受け、利用者状況が変化した結果の判断であるという客観的評価の根拠となる日々のサービス実施状況の事実を共有確認できる記録整備の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全体で連絡ノートを活用し、関わった職員が記録に適宜記入し、一人一人の情報を、変化のあった時はすぐに見直し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族等の思いに柔軟に、また状況に応じて通院、送迎等対応している。必要な物なども家族ができないときは代行したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の区長さん、民生委員、介護保険係、地域包括の職員の方などの参加により、地域の情報やサービス内容に関する評価、助言などで役立たせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほかの受診など、ご家族と協力している。	管理者より入居時に本人・家族へ詳細に説明され、かかりつけ医は利用者の殆どが事業所の協力医療機関となっている。医師の往診の他、同機関による訪問看護の看護師より週1回定期的に訪問を受けることで利用者の健康管理がなされている。緊急時においても24時間対応可能となっており、他科受診が必要な時も協力医から紹介状が用意され、速やかな連携が取れており家族の負担軽減に向けた支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期の訪問看護による健康管理、医療面での相談・対応などを行っています。24時間訪問看護と連絡がとり合える体制にあり、体調変化の報告を行い医療につなげてもらうことがスムーズである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連絡会議にも出席させてもらい、関係作りに努めている。入院時には病院の地域連携室や担当看護師とこまめな情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や看取りについて、事業所指針を用いて、本人、家族等からの意向確認を取り、またいつでも意向の変更についても思いや変化に対応できるよう説明している。	事業所では契約時において、「看取りに関する指針」と共に「看取りについての事前確認書」等が、本人・家族の意向の下、確認と同意を得ている。今後は看取りの実績からも、家族のその時々の変化に合わせた終末期のあり方を検討していくとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期で消防署の協力を得て訓練に参加し、体験・習得できるようにしている。身につけているか心配ではあるが。	急変時・事故発生時のマニュアルの整備は出来ている。年内にも消防署による講習を受ける予定となっており、職員全員で利用者の急変対応の実践に繋げられるよう検討している。事業所入り口にはAEDの設置もされている。	急変時におけるマニュアルはファイルされているが、いざという時に居合わせた職員が初期対応を始動出来るかという多少の不安が否めない現状が窺える。職員が慌てずに適切な行動を誰もが見て対応できるように準備されることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月1回の自主消防訓練の他、消防署の立会いのもとに、訓練を年1回実施している。	消防署立ち会いの下、日中想定で火災訓練を実施している。また、連絡網の訓練の他、2ヶ月に1回自主的に防災訓練を実施することで避難経路、避難場所の確認など意識付けを強化している。昨年度の課題となった近隣住民との協力体制や備蓄品の増量等についても積極的に検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲への配慮や本人の気持ちを大切にしながら対応を心がけているが職員の声掛けに中々反応してくれない方に戸惑ったり、どうしたらよいか悩んでいる。	管理者は利用者一人ひとりの思いを大切に対応することの重要性を感じており、職員の話し方や接し方について注意をはらっている。不適切と感じた時には休憩室等で職員と具体的に確認し合っ、プライバシーを損ねることのないように注意喚起することを意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の力に応じた言葉かけにより、自己決定や意見が言えるような働きかけを気にかけている。自分で茶話会の茶菓子を選んだり、散歩に行ってくると職員に声をかけてから出かける方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、柔軟に参加してもらっている。自分のペースで過ごせる人もあれば、そうでない人もいるので、様子をみながら誘いかけや希望を聞いてみたりしてやりたいことに取り組めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に合わせ、できない部分の整容支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に味付けや調理法を聞いたりしながら職員が調理している。おしぼりたたみをお願いしている。食事のセッティングは職員、下膳はできる方にはお願いしている。	食事は楽しみの一つとして、旬のものを取り入れながら食事全般手作りを基本としている。徐々に今まで出来ていたことが難しくなってきた利用者も居られる中、おしぼりたたみや味付け、下膳など、職員と共にできる範囲で力を発揮する場となっている。食事の内容等についても外部からの管理栄養士による指導も受け、バランスに配慮した食事づくりとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	申し送りなどではその日の体調など情報共有して、次の食事につなげている。管理栄養士による研修も行っている。水分摂取には特に気をつけOSIを作り、不調時あるいは浴後などに飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	言葉かけや見守り、またはできない方への手伝いなど、把握し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせたパットの種類や誘導の仕方に配慮している。リハビリパンツから綿パンツ(少量パット)に移行した方もいる。失敗してもさり気なく、済ませられるように対応している。排泄時の一連の行動にできる部分を職員で情報共有している。	一人ひとりの排泄パターンを知る事からトイレでの排泄を基本としている。個々の仕草や行動に気づき、さり気なくトイレに誘導している。また、過介護にならないよう日頃から配慮し、できるだけパットの種類や使い方にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、果物・乳製品・水分補給など摂取してもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤も使用したり、ゆず湯などでも楽しんでもらっている。本人の希望に沿って入浴方法や安心して入浴が出来るような対応をしている。	入浴は週に3回、一日置きを基本として支援している。利用者が身体的に困難度を増している中、困難な人には職員2人介助で工夫を凝らしながら支援している。否定的な利用者には無理強いせず誘導の仕方を工夫したり、日をずらしたりとその人の気分やタイミングで対応している。季節ごとに菖蒲湯やゆず湯などの変わり湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや習慣で安心して休息・午睡してもらえるようにしている。午睡時の明るさや室温に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース内に服薬に関する説明書をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬支援は、飲み込みまで確認するようにしているが溶けにくいものや拒薬する方には情報共有し主治医に相談したりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先の作業や、たたみ物など、その人の力が発揮されるような仕事をお願いしている。職員も参加し、会話したりしている。ねぎらいの言葉がけを忘れないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分転換など可能な限り、買い物やドライブに誘いかけ実施している。本人から散歩の要望によりホームの周囲を歩いたり、ベンチで休んでから戻ってくる習慣の方もいる。	以前は事業所周辺や近隣を散歩したりすることも出来ていたが、最近では日常的に歩くことも難しくなってきた利用者も増えている。本人の要望に応え、出来るだけ気分転換が量れるよう車でドライブや買い物等、外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の管理できる範囲の所持金のある方もいる。近所のコンビニに職員と買い物に出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届き、お礼の電話をかけたり、家族や親せきとやりとりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの明暗、温度、湿度には配慮し、こまめに調節したり気にかけているが個々の思いや感じ方に差がありすぎて居心地の良さや工夫が中々かなえられない。	共用スペースには利用者と共に制作した貼り絵が季節感を醸し出している。リビングのソファからは魚沼の山々や田園風景も望め、利用者も外の眺めが最高と寛ぐ人、テレビを見る人、職員のお手伝いをする人と思い思いの時間を過ごしている。心地良さを感じる共用スペースである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の思いを職員が汲み取れるよう配慮している。一人で過ごせる場所に椅子を置いたり、ソファでくつろいで頂いている。落ち着く場所のある方もいるため確保できるようにしている、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお部屋という安心感を持って頂き、家族や親せきの方々の写真などが飾られたり自分好みにアレンジしたりできるようにしている。	居室内への持ち込みは特に制限はなく自由となっている。居室のベッドとチェストは事業所備え付けの物となっており、すっきりと整理整頓されている。壁面やチェストの上にはそれぞれの好みのもので飾り付けがされたり、馴染みのものを置いたり、温かな居心地の良い居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の分かる力と、できる力を把握し、家族に相談したりして都度整えたり必要な物をそろえたりしている。混乱が生じた時には、丁寧に繰り返し説明したり、何が原因なのかを探り、相談し、手立てを考えたりして少しでも安心できるようにしてる。		